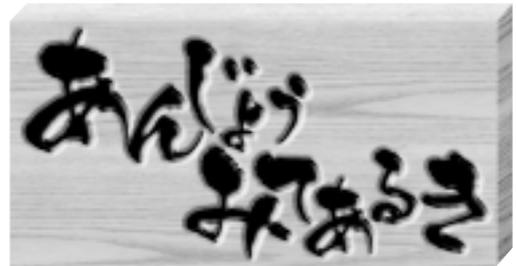


けんぼんちやくしよく

絹本着色福釜松平三代像(左から親次、親俊、親盛)

福釜町の宝泉院所有。市文化財指定。

歴史博物館で複製を展示しています。



★福釜城址
(福釜町)

東に長田川、西に道田川が流れる福釜町蔵前の集落。この両川の合流点へ向かって張り出した半島状の台地先端に、福釜城がありました。

この城は、徳川家康の先祖である松平長親(松平氏第五代。安祥城第二代城主)が安祥城の支城として築き、その次男親盛に与えました。永正12年(1515年)親盛が13歳の時です。こうして福釜松平が誕生しました。

親盛は享禄3年(1530年)松平清康に従って東三河の宇利城を攻めましたが討ち死してしまいました。

第二代親次はやりの名手で、13歳から戦に参加。岡崎松平のためによく戦



今月の案内人

福釜町 岩月 哲さん

その11 福釜城址



ったという事です。また、第三代親俊も父と同じくよく戦い、妻が長篠城主・奥平貞延の娘であった関係で長篠にこもって武田と戦いましたが、天正9年(1581年)病死してしまいました。以後、第四代康親が徳川家康に従って各地を転戦し、関ヶ原の戦いを経るなどして、福釜松平は旗本として江戸に移りました。

残念ながら、現在は城跡がなくなり、その姿を見ることはできませんが、城にあった祠が民家の庭に残されています。また、福釜町の福釜松平家ゆかりの宝泉院には三代の肖像画があり、同寺西には三代の墓も残されています。